

学術奨励賞一覧

年	受賞者	演題
2025 (令和7)	清澤 大裕	治療戦略を見据えた新たな非淡明細胞型腎細胞癌層別解析へのアプローチ
	矢野 光剛	卵巣明細胞癌を起点としたPPP2R1A遺伝子変異がんに対する免疫療法の有効性の発見
	峰 宗太郎	新興ウイルス感染症の病理学的評価法の確立と予防・治療法研究のための病理学の応用
	加藤 寛之	動物モデルを基盤とした膵発癌機構の解明と臨床応用を見据えたトランスレーショナル研究
	西村 碧 フィリーズ	病理・臨床・分子病態の統合によるリンパ増殖性疾患の再体系化と疾患理解の刷新
	飯田 俊	分子病理学的手法によるウイルス感染症の病態解明
	吉田 将太	全臓器・全身スケールの1細胞解像度三次元アトラスの構築と病理学的応用
	小田 義崇	ハイドロゲル誘導がん幹細胞の研究および病理スコアリングの開発
2024 (令和6)	深川 彰彦	腎細胞がんのゲノム・エピゲノム統合解析
	安藤 俊範	口腔扁平上皮癌におけるHippo経路の破綻が導く増殖・薬剤耐性機構
	牛尾 綾	自己免疫疾患マウスの病理組織学的解析と疾患発症機序の検討
	廣瀬 勝俊	脈管異常の臨床病理学および分子病理学的解析
	滝 哲郎	腫瘍内不均一性を包括した肺がん病理組織評価の新たな枠組み
	尾原 健太郎	病理組織検体を用いたマルチオミックス解析による発がん機構の解明
2023 (令和5)	大原 悠紀	オミックス解析を用いたがんの分子サブタイプと代謝の誘導メカニズムの解明
	大石 直輝	希少リンパ腫病型における均質性・多様性の解明と診断マーカー・予後因子の同定
	神保 直江	POU2F3発現の小細胞肺癌と大細胞神経内分泌癌は形態学および表現型的に重複を示す
	小林 信	高深度サーフェソーム解析による卵巣がん新規診断・治療標的分子の探索
	藏本 純子	病理組織検体のオミックス解析に基づく肝細胞がんの本態解明と臨床応用
2022 (令和4)	鈴木 理樹	高悪性度胎児型肺腺癌の臨床病理学および分子病理学的解析
	酒井 康弘	リンパ球ダイナミクスの解明とGANP/DSS1分子群による発癌モデルの構築
	竹内 真衣	成人T細胞白血病/リンパ腫の免疫微小環境の解析
	高松 学	デジタル病理・細胞診画像を対象とした人工知能による予後予測・腫瘍遺伝子予測法の確立
	岩谷 舞	炎症性腸疾患関連腫瘍の臨床病理学的検討及び欧米と本邦を横断する消化管組織診断学の理解
	佐藤 峻	日本人前立腺癌における病理学的予後因子の網羅的検討 低侵襲治療の適応拡大に向けて
	川西 邦夫	進化におけるCMAHの偽遺伝子化とヒトの種特異的な疾患リスクとの関連について
	大橋 瑠子	嫌色素性腎細胞癌の臨床予後に関連する組織形態と分子病理学的異常の解析
2021 (令和3)	田原紳一郎	子宮体部類内膜癌のMELF patternの形成に関わる因子の解析
	紅林 泰	腫瘍免疫・血管微小環境の組織病理学的・分子生物学的解析ならびに新規分類の確立
	吉本 尚平	口腔腫瘍における腫瘍微小環境がその進展に与える影響の解析
	松本 俊英	卵巣明細胞癌の発癌機構および抗癌剤耐性獲得の分子機序に関する研究
2020 (令和2)	松井 崇浩	多光子励起現象を駆使したヒト組織の可視化と低侵襲がん診断法の開発
	高阪 真路	ゲノム病理学的アプローチによる発がん機構の解明
	丸 喜明	マウスおよび患者由来オルガノイドを用いた発がん機構解明と創薬・精密医療に資する基盤的研究
	種井 善一	神経疾患の臨床病理学および実験病理学的研究
	江本 桂	がんの悪性度や予後を予測する形態学的指標の同定

	佐藤 啓	高悪性度リンパ腫およびメトトレキセート関連リンパ増殖性疾患の臨床病理学的解析
	杉本幸太郎	細胞間接着と核内受容体の連関による細胞制御機構の解明と新規がん治療への展開
	山下 享子	MDM2増幅肉腫の病理学的解析と予後因子の同定
2019 (令和元)	山ノ井一裕	組織形態像に立脚した、多段階発がん過程ならびにがんの悪性度に呼応した遺伝子、糖鎖修飾の変化の検討
	阿部 浩幸	胃癌(特にEBV関連胃癌)における腫瘍免疫の病理学的解析
	林 玲匡	肝胆膵領域腫瘍の形態学的変化・分子学的背景の新たな統合パラダイム
	大島 健司	大腸癌の増殖を促進する新たな癌代謝経路の同定
	伊藤 秀明	細胞分裂関連因子STIL (SCL/TAL1 interrupting locus) の癌細胞遊走における機能解析
	宮居 弘輔	精巣胚細胞腫瘍の発生・進展過程における分子基盤の解明
	六反 啓文	胃癌の分類・診断最適化に向けたゲノム病理学的解析
	増井 憲太	遺伝子異常と病態をつなぐ癌特異的代謝機構の分子病理学的解析
	久保 輝文	ヒト疾患における局所炎症環境形成機構の形態および機能病理学的解析
	田中麻理子	胆膵癌の発癌過程解明と予後予測因子の同定
2018(平成30)	門田 球一	肺癌における Tumor spread through air spaces の臨床病理学的意義
	大江 知里	高悪性度腎癌における分子病理学的異常と関連する組織形態の解析
	信澤 純人	新規中枢神経系腫瘍の臨床病理学的・分子遺伝学的解析
	藤原 章雄	腫瘍進展におけるCD163陽性マクロファージの機能解析とCD163をターゲットした治療戦略
2017(平成29)	加藤 洋人	ゲノム病理学的がん研究に基づく新規がん糖鎖抗原およびがん治療抗体の発見
	眞杉 洋平	PDCD1リガンド発現が大腸癌に対する免疫反応、アスピリン内服効果に与える影響に関する分子病理疫学研究
	沖田結花里	乳がんの発生・進展における転写因子MAFKとその標的遺伝子GPNMBの作用
	坂本 直也	消化管がんにおけるnon-coding RNA解析とオルガノイドを用いた細胞生物学的な検討
2016(平成28)	三好 寛明	悪性リンパ腫を主体とした腫瘍性疾患におけるバイオマーカー検索
	山田 裕一	孤立性線維性腫瘍及び類似腫瘍に関する分子病理学的研究
	内木 綾	細胞間相互連絡による肝障害調節機構の分子病理学的解析と肝発癌遺伝子の同定
	里見 介史	中枢神経系腫瘍の病理診断学的研究と実験病理学的研究
2015(平成27)	岡崎 泰昌	鉄が関与する、細胞傷害から発がん機構の解析と細胞増殖調節分子の同定
	森 亮一	皮膚癬痕形成の分子メカニズム解明および核酸医薬開発への応用
	牛久 綾	Epstein-Barr virus関連胃癌における発癌-宿主・病原体マイクロRNAによる癌化機序
	稲熊 真悟	膵臓癌細胞における悪性形質を規定する
	常松 貴明	癌の発生・進展に関する分子病理学的研究
2014(平成26)	和田 直樹	悪性リンパ腫における臨床病理学的研究および幹細胞的性格を有する細胞群の研究
	下田 将之	病的組織におけるメタロプロテアーゼの機能解析研究
	高田 尚良	節外性リンパ腫の分子病理学的研究
	大西 紘二	悪性腫瘍におけるCD169陽性リンパ節マクロファージの臨床病理学的意義の解明
2013(平成25)	山田 壮亮	遺伝子改変動物モデルを用いた、動脈硬化における炎症病理学的検討
	林 大久生	肺腺癌における新規リンパ節転移予測マーカーの検索
	牛久 哲男	胃癌病理のスペクトル：個別化医療を支える基盤研究
	松山 高明	不整脈の発生に関連する心臓の病理形態学的基質の解明

2012(平成24)	孝橋 賢一 笹平 智則 大迫 智 森川 鉄平 新井 恵史	軟部腫瘍におけるSMARCB1/INI1遺伝子解析と病理学的分類への応用 口腔癌における新規血管・リンパ管新生マーカーの検索 リンパ節転移診断への分子生物学的手法の導入による乳癌診療の個別化 癌微小環境・生活習慣が癌患者の予後に及ぼす影響 多段階発がん過程におけるエピゲノム異常の意義に関する研究
2011 (平成23)	菰原 義弘 吉田 朗彦 富田 弘之 佐久間裕司 佐藤 康晴 木村 徳宏 川崎 朋範	腫瘍内微小環境におけるマクロファージの役割に関する病理学的解析 低悪性度骨肉腫およびその脱分化現象の病理診断に関する研究 消化器発癌のメカニズムと周囲微小環境の役割に関する研究 肺腺癌の進展、予後予測およびアポトーシス抵抗性に関する病理学的研究 IgG4関連疾患の臨床病理学的解析 変形性関節症をはじめとする骨・関節疾患の分子病理学的研究 乳腺における神経内分泌癌-神経内分泌型非浸潤性乳管癌を含めて-
2010 (平成22)	千葉 卓哉 廣橋 良彦 河崎 秀陽 近藤 哲夫 松原 大祐 大石 善丈 仙谷 和弘	老化のメカニズムおよびその制御法に関する基礎的研究 ヒト癌幹細胞免疫応答機構の分子病理学的研究 ES細胞/iPSにおけるサイトメガロウイルス感染感受性の多段階的制御とその機序 甲状腺癌におけるエピジェネティクス異常と癌の分化誘導に関する研究 肺腺癌の進展機構と分子標的についての研究 婦人科腫瘍の病理診断および抗癌剤耐性に関する研究 胃癌発生・進展に関わる新規マーカーの探索とその病理診断への応用
2009 (平成21)	浅野 直子 榎本 篤 池田 博子 三上 修治 西原 広史 奥寺 康司 竹内 賢吾	加齢性EBV関連B細胞リンパ増殖異常：高齢者でのEBV陽性Hodgkinリンパ腫との臨床病理学的比較検討 がんの進展および神経細胞移動におけるアクチン結合たんぱく質Girdinの機能の解明 慢性肝胆道疾患に関する分子病理学的研究 腎細胞癌の浸潤・転移の分子機構 シグナル伝達分子の分子病理学的解析；Crkファミリー蛋白と腫瘍 肺癌における遺伝子・がん抑制遺伝子異常の生物学的・臨床病理学的意義 ALK肺癌における診断法の確立、新規融合遺伝子の同定および臨床病理学的特徴の解明
2008 (平成20)	松林 純 島田 啓司 新村 和也 外丸 詩野 山本 宗平	G-protein-coupled receptat kinase4の過剰発現と乳癌の腫瘍形成との関連性について 泌尿器科腫瘍におけるDNA修復蛋白ALKBH familyの分子病理学的意義について 癌染色体不安定性の要因として中心体複製制御機構異常に関する研究 慢性ウイルス感染症や自己免疫疾患など難治性炎症性疾患の病態解明 卵巣明細胞腺癌における新たな発癌経路の提唱と分子機構の解明
2007 (平成19)	池田純一郎 宮川 文 宇於崎 宏 全 陽	腫瘍における幹細胞的性格を規定する因子に関する研究 肝移植後の急性および慢性拒絶反応、原因不明の慢性肝炎に関する臨床病理学的研究 病理における情報技術の普及・啓発活動 胆道がんの発生・進展に関する病理学的研究：人体症例を中心に
2006 (平成18)	工藤 保誠 岡部 光邦 齋藤 剛 仙波 秀峰 山下 篤	口腔癌の増殖、浸潤、転移に関する分子病理学的検討 粘表皮癌におけるMECT1-MAML2キメラ遺伝子の臨床病理学的意義の解明 滑膜肉腫における上皮分化機構に関する研究 癌抑制遺伝子Fhitの機能解析、及び染色体脆弱部位と発癌との関連についての検討 心血管イベントの発生機序の解明

2005 (平成17)	長谷川秀樹 岩下 寿秀 小林 基弘 大上 直秀 坂谷 貴司	成人 T細胞白血病 (ATL) モデルマウスの作製とその解析 多発性内分泌腫瘍症 2型とヒルシュプルング病の分子生物学的および細胞生物学的研究 Induction of peripheral lymph node addressin in human gastric mucosa infected by Helicobacter pylori. 網羅的遺伝子発現解析 SAGEによる癌特異的遺伝子 Reg IVの同定とその発現・機能解析 エピジェネティック制御機構の破綻による腫瘍発生機序の解明
2004 (平成16)	福嶋 敬宜 井尻理恵子 石津 明洋 中村 靖司 佐藤 保則 山元 英崇	膵腫瘍の臨床病理学および分子病理学的研究の推進 神経細胞芽腫 (NB) の病理組織学的研究, 小児固形腫瘍 (NB以外) の病理・細胞の生物学的研究 モデル動物を用いた自己免疫疾患発症機序の解析 乳癌リンパ節転位機序の解明 カロリー病モデル PCKラットの肝内胆管上皮細胞の増殖機構の解明とその制御 消化管外に発生する gastrointestinal stromal tumorの分子病理学的解析
2003 (平成15)	石丸 直澄 長尾 俊孝 中塚 伸一 櫻井 信司 鈴木 貫	卵巣摘出マウスを用いたシェーグレン症候群疾患モデルの確立 唾液腺腫瘍の外科病理学的研究—新WHO腫瘍分類Blue Book 編集委員としての参画— 悪性リンパ腫発生機序の分子病理学的解析 Gastrointestinal stromal tumor (GIST) と消化管カハール細胞の病理学的研究 ヒト乳癌組織におけるSteroid sulfatase 及び estrogen sulfotransferase
2002 (平成14)	保坂 直樹 鷹橋 浩幸 高桑 徹也 田中 伸哉	地域医療の現場からの多数の症例報告 生殖器悪性腫瘍とくに卵巣癌、前立腺癌の分子病理学的解析 リンパ腫等におけるFas遺伝子異常の研究 細胞内シグナル伝達アダプター分子CRKの細胞病理学的解析
2001 (平成13)	原田 憲一 一宮 慎吾 金井 弥栄 小林 雅子 森井 英一	原発性胆汁性肝硬変における肝内胆管崩壊と消失機序の解明 p53遺伝子ファミリーによる胸腺上皮細胞の機能制御機構 ヒト多段階発がんにおけるDNAメチル化の変化 FISH法を用いたヒト癌における癌遺伝子及び癌抑制遺伝子の解析 突然変異マウスを用いた転写因子MITFのマスト細胞分化における役割の解明
2000 (平成12)	遠藤 泰志 幅野 涉 伊藤 彰彦 伊藤 浩史 北澤 莊平 長嶋 洋治 谷田部 恭	胃分化型癌の細胞形質と遺伝子変化 ヒト腫瘍におけるミトコンドリアゲノムの不安定化 サブトラクション法による癌細胞転移機構の解析 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化機構の解明 エピジェネティクスによる遺伝子発現調節機構の解析：病理組織検体への展開 腎腫瘍の病理学的・細胞生物学的研究, 癌の転移浸潤機構の解明 clonality を中心とした腫瘍における遺伝子病理学的検討
1999 (平成11)	藤井 博昭 片野 晴隆 村田 哲也 小田 義直 豊國 伸哉	ヒトヘルペスウイルス 8 の感染病理学的研究 市中病院病理検査室における病理検査サービス向上の実践 滑膜肉腫における分子生物学的予後因子の研究 活性酸素による組織傷害検出法の開発および活性酸素発がんの標的遺伝子解明